

2024 年 2 月 28 日

第 15 回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会
本大会に関係するすべての皆様へ

公益財団法人
日本ライフセービング協会
ライフセービングスポーツ本部本部長 田村 憲章
競技審判委員会委員長 中島 典子
チーフレフリー 梶本 道彦

第 15 回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会
メドレーリレー女子(予選)の競技運営について (お詫び)

拝啓 時下ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。
先般、2024 年 1 月 27 日、28 日にわたり静岡県富士水泳場で行われました「第 15 回全日本学生
ライフセービング・プール競技選手権大会 (併催：プール競技記録会 2023)」において、下記の
とおり一部の競技種目において競技運営ならびにその判定に誤りがあることが判明いたしまし
た。

メドレーリレー (4×50m) 女子予選のレースにおいて、本件に関わる事案において出場全 16 チ
ーム中 7 チームが失格となりました。しかし本文の経緯の通り判定に誤りがあり、失格を取り消
したところ 6 チーム分しか取り消し行為が行われず、1 チームが決勝レースに出場することがで
きませんでした。

まずは関係する該当チームならびに参加選手と関係者の皆様には衷心より深くお詫び申し上げ
ます。また、本大会に参加された全てのチーム、選手の皆様をはじめ、ご支援ご協力を賜りまし
たパートナー企業、関係諸機関、関係団体、報道各社、ライフセービング・スポーツファンの皆
様にも合わせて深くお詫び申し上げます。

皆様からの信頼を取り戻せるよう真因を抽出し、再発防止に努める所存でございます。
何卒宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

この度の競技運営ならびにその判定の誤りについて、概要と今後の対応を以下の通りご報
告申し上げます。

■ 経緯

1. メドレーリレー開始直前に、第 3 競技者から第 4 競技者への引継ぎのルールに関し
て、審判員より問題提議があった。これまでは、第 3 競技者が折返し壁/縁にタッチ
した後は、第 4 競技者は折返し壁/縁又はスターティングブロックに触れていなくて
も、(レスキューチューブの) ハーネスに触れても失格とはしない運用をしていた。し
かし、競技規則 S3-36 17.1.D.『第 4 競技者：(フィンを着着した) 第 4 競技者は、
水中に於いて少なくとも一方の手で折返し壁/縁又はスターティングブロックに触れ、
「ハーネスを着用する。』』とこれまでの運用とは異なる記載があり、この一文に関す
る取扱いについて、問題提議がされた。
2. この一文の取り扱いについてチーフレフリーは「第 4 競技者は折返し壁/縁又はスタ
ーティングブロックに触れた状態でハーネスを着用しなければならない。」との判断

を採用し、各セクションのチーフに伝達した。

3. レース開始後、この判断に関して、選手及び審判員ともに混乱が生じたことと、「今回の判定基準（解釈）は、2023 年 12 月のプール競技規則説明会の内容と異なる」運用となってしまったため、チーフレフリーの判断によりレースをストップした。
4. レースを再開するにあたり、チーフレフリーより会場全体に、競技規則の解釈に相違があったことを説明した。また、既に抗議に集まっていた選手には失格を取り消す旨を説明し、これから競技を行う選手には、「第 3 競技者から第 4 競技者への引継ぎは、第 3 競技者が折返し壁/縁にタッチした後は、第 4 競技者は折返し壁/縁又はスターティングブロックに接触していなくても失格とはならない」旨を説明した。
5. 既に同種目のレースを終えているもののうち失格を取り消すべく、当該事案に係る第 3 競技者から第 4 競技者への引き続き違反に関する失格用紙を層別し、失格を取り消す処置をした。
6. 競技会が終了した翌日の 2024 年 1 月 29 日、メドレーリレーに出場し失格と記録された玉川大学のチームの関係者から、「同じヒートに出場して、同じ内容（当該第 3 競技者から第 4 競技者への引き続き違反）で同時に失格通告を受けた別のチームが決勝に出場したようだが、自チームとの差は何か」と問い合わせがあった。
7. 申し出を受けたチームの失格用紙の内容を確認したところ、失格を取り消す処置がなされていないことが判明した。

■ 発生原因

- 当該種目のレース直前の解釈、および運用の変更であり、選手に十分な説明がなされないままアンフェアな状態で競技が開始されたこと
- 失格の取り消しに関して参加した全てのチームに対して点呼を行い、具体的な説明をしなかったこと
- 取り消した失格用紙の取り扱いについて、管理が不十分であり、取り消し処置が完全になされなかったこと
- 公式記録を公開する前に、取り消した失格用紙との照合から漏れたこと

■ 検討対応

本件について、下記の通り審議検討会議を実施した。

2024 年 1 月 30 日（火）午後 8 時～午後 9 時 45 分

田村憲章（ライフセービングスポーツ本部・本部長）、中島典子（競技審判委員会委員長）、梶本道彦（同委員会委員・今大会チーフレフリー）、競技審判委員会委員 3 名、水川雅司（JLA 事務局/同本部・副本部長）

■ 該当チームへの回答ならびに謝罪説明

2024 年 2 月 10 日（土）午後 1 時～午後 2 時

玉川大学を訪問し、謝罪と説明を行った。

訪問者：中島典子、梶本道彦、水川雅司

出席者：玉川大学チーム関係者 7 名

（メドレーリレー女子選手 4 名、大学教授兼部担当の先生、外部指導者 2 名）

- 経緯と発生原因
上記内容を回答、説明をした。
- 当該チームへの謝罪
当該チームに対して、記録を失格のまま扱ってしまったこと、並びにメドレーリレーの決

勝の場で競技を行う権利を奪ってしまったこと、及び名誉を損なったことに対して、謝罪をした。

また、チームの名誉を回復するため下記の対応をすることを説明し、ご承諾をいただいた。

1. メドレーリレー予選の失格を取り消し、公式タイムを掲載すること
2. 有効となった予選記録を決勝記録にあてはめ、決勝の順位を5位とすること
3. 決勝順位に基づいた総合得点を玉川大学に加点すること
4. 「2.」ならびに「3.」の結果を受けて、他のチームの順位は取り消さない。また順位は繰り下げない。

● 当該チームからの要望

- ① 正しい予選レース結果をもとにした、本来あるべき決勝スタートリストの作成並びに公表をすること。
- ② 前項目の「2.」を反映したレース結果を作成し、公表をすること。

■ 他の失格チームの有無

同様の失格扱いを受けながら失格の取り消し漏れがないかどうか、同種目の失格用紙を再チェックしたところ、プール競技記録会 2023 に参加していた十文字高校チームが当該事案に該当する可能性があることが判明した。

このため確認のうえ、必要に応じて失格を取り消し、記録を有効なものとする。

■ 再発防止策

以下の対策を講じ、再発の防止に善処する。

- ① やむを得ずレース直前に競技規則の変更が生じる場合は、チーフレフリーまたはそれに準ずる立場の者が、出場する選手及び審判員に十分な周知をして運用する
- ② 失格を取り消す場合は、該当するチームを呼び出し、チーフレフリーまたはそれに準ずる立場の者からもれなく伝える
- ③ 競技規則違反（失格）が起きた場合に使用する失格用紙の運用について、審判員から記録管理（ヘッドスコアラー）までのフローを再度明確にし、審判員への教育を徹底する。
- ④ 万が一、失格を取り消すことになった場合の失格用紙を別管理し、公式記録に失格の取り消しが反映されていることをチーフレフリーが確認をする

以 上